



T O M O G A K U
韞 学
Fukuyama City Tomonoura Academy

福山市立韞の浦学園

1 韮学とは

韮学を学ぶことの意義

韮学とは？

地域を素材とした課題発見・解決学習を通して、世界に視野を広げ、社会のために実践する力を育むための新教科

韮学の目的は？

社会のために実践する力（課題発見・解決力、情報活用能力、コミュニケーション能力、郷土愛）を身に付けることを目的とする

常夜灯は約11mある！
（韮についての知識）



常夜灯の魅力をどう伝えようか？
（課題解決力）

常夜灯っていつ建てられたのか聞いてみよう。
（情報活用能力）

観光客に声をかけてガイドをして、声のかけ方を学んだよ。
（コミュニケーション能力）

常夜灯のある韮って歴史があってすてきな。
（郷土愛）

地域を素材

~~「鞆を学ぶ」~~

「鞆を使って学ぶ」

課題発見・解決学習

探究的な学び

主体的な学び

社会のために実践する力

	前期（１～４年）	中期（５～７年）	後期（８・９年）
課題発見・解決力	①友達の考えと自分の考えを比較することで新たな課題を発見することができる。 ②友達と話し合いながら納得解を導き出すことができる。	①物事を分類・整理・比較することで新たな課題を発見することができる。 ②友達と協働し目的に応じた納得解を導き出したり実行したりすることができる。	①物事を多面的に見たりこれまでの経験や知識を活用したりする中で新たな課題を発見することができる。 ②多様な他者と協働したりよりよい解決方法を選択したりすることで目的に応じた納得解を導き出したり実行したりすることができる。
情報活用能力	①多様な情報を収集することができる。 ②収集した情報から自分の考えをもつことができる。 ③身近な相手に、自分の考えを主体的に発信することができる。	①適切な情報を収集することができる。 ②収集した情報を分類・整理・比較、目的や意図に応じてまとめることができる。 ③他者を相手とし、相手に合わせた方法で発信することができる。	①適切かつ効果的な情報を収集できる。 ②収集した情報を分類・整理・比較・関連付けて、目的や意図に応じて適切かつ効果的にまとめることができる。 ③多様な他者を相手とし、方法と関連付けてより効果的な方法で発信できる。
コミュニケーション能力	①自他を理解しながら話し合うことができる。 ②友達と話し合うことで、自分の考えをもつことができる。	①相手の考えを受け入れながら協働することができる。 ②相手の考えを理解し、自分の考えと比較して、適切な解を導き出すことができる。	①多様な他者と互いの考えを認め合いながら協働することができる。 ②多様な他者と協働することで新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解を導き出すことができる。
郷土愛	①鞆のよさを知っている。 ②インタビューや行事に参加し主体的に地域と関わっている。	①鞆のよさや課題を知っている。 ②よさを広めたり課題を解決したりするために行動できる。	①鞆のよさや課題を理解した上で、解決策を考えることができる。 ②世界的な視野で、鞆のよりよい町づくりに貢献できる。

2 探究的な学び

探究的な見方・考え方を身に付けさせる

探究的な学びとは？

探究的な学びとは、実社会や実生活における問題について、子どもが自ら課題を設定する学習であり、探究の過程を経由し、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される学習のことである。問題解決的な活動が発展的に繰り返され、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことである。

探究の過程とは、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現である。

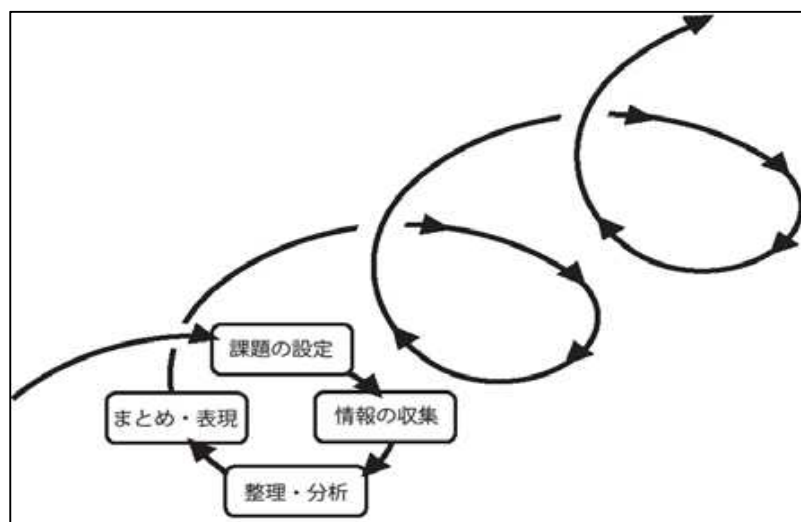


図1 探究のプロセス

①課題の設定

「課題の設定」とは、体験的な活動等を通じて課題意識をもつことである。学習対象とのかかわり方や出会わせ方などを教師が工夫する必要がある。その際、事前に子どもの発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの子どもの考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせたりする工夫をしなくてはならない。対象に直接触れる体験活動が重要であり、そのことが、その後の息長い探究活動の原動力になる。

②情報の収集

「情報の収集」とは、必要な情報を取り出したり、収集したりすることである。情報を収集する活動は、そのことを子どもが自覚的に行う場合と無自覚的に行っている場合とがある。また、次の点に配慮が必要である。

ア 収集する情報は多様であること

実験等による数値化された情報、文献やインタビュー等による言語化された情報、体験活動等による感覚的な情報。学習活動により情報の種類が違ふ。

イ 課題解決のための情報収集を自覚的に行う

体験活動自体の目的を明確にし、そこで獲得される情報を意図的に蓄積することが大切。そのことによって、どのような情報を収集するか、どのようにして蓄積するか、などの準備が整う。

ウ 収集した情報を適切な方法で蓄積する

収集した場所や相手、期日などを明示してポートフォリオしていくことが重要。体験活動で獲得した感覚的な情報は時とともに忘れ去られてしまうので、作文等で言語化して蓄積しておく必要がある。

コラム①：情報収集の仕方の優先順

①図書

子どもが自分で選書

→

②体験活動

インタビュー、取材、実験など

→

③インターネット

優先順位は最下位

子どもが対象と直接かかわれない、インターネットの活用は優先順位が低い。逆に自分で選書する図書は高い。図書で調べても分からないからインタビューなど体験活動へ行くことで体験に対する必然性も生まれる。

③整理・分析

「整理・分析」とは、収集し、取り出した情報を整理、分析することで思考する活動へと高めていくことある。整理は、種類ごとに分けるなどして多様な情報を減らすことで、分析は、因果関係を導き出すことである。

ア どのような情報がどの程度収集されているかを把握すること

数値化した情報と言語化した情報とでは扱い方が違ってくる。また、学習対象として扱う情報の分量によっても学習活動は変わってくる。

イ どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定すること

比較して考える、分類して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考えるなどの方法と何をどのように考えさせたいのかを意識し、学習活動を適切に位置付けることがポイントになる。その際に、国語科や社会科などの教科での学習成果が生かされることもポイントである。「考えるための10の技法」「思考ツール」を参考に。

ウ それらの活動を主体的に

主体的な活動にするために、前期は、技法を使った考え方や思考ツールの使い方に慣れることも目的とし、中期では、技法やツールを選択させ、後期では自ら決め整理・分析させるなど系統的な指導が必要である。

④まとめ・表現

「まとめ・表現」とは、気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現することである。自分自身の気付きを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。そうすることで子どもの既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながり、一人一人の子どもの考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりする。

ア 相手意識や目的意識を明確にして、まとめたり表現したりすること

だれに伝え、何のためにまとめるかによって、まとめや表現の手法は変わり、子どもの思考の方向性も変わる。

イ まとめることで自分の考えや新たな課題を自覚することにつながる

まとめている中でもっと必要な情報が出てきたり新たに気になる疑問が生まれたりすることもある。探究の過程は①→②→③→④と流れていかない場合もある。

ウ 伝えるための具体的な方法を身に付けること

多様な方法の中から相手意識や目的意識から伝える方法を選択するためには、具体的な方法を多くしている必要がある。絵地図、地図記号を用いた地図、すごろく、カルタ、写真集、クイズ本、プレゼンテーション、冊子、動画などこれまでも多くの具体的な方法でまとめてきた。

3 探究を探究する

「探究」について探究してみると

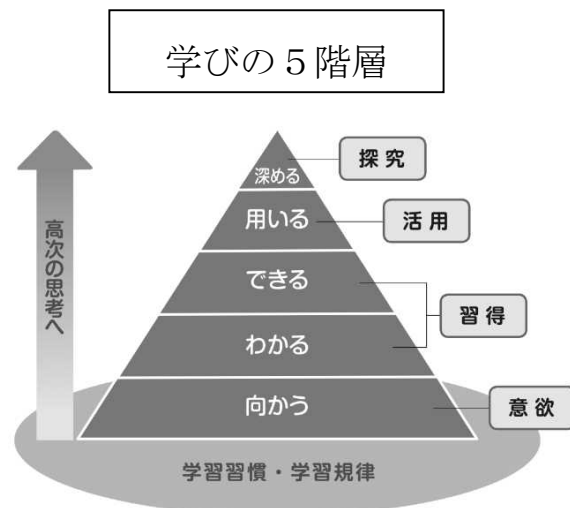
探究を探究する！

子ども達の学びは、右のように5階層で構成されています。

まず土台となるのが「向かう」気持ちを育てることです。学ぶ必然性の高い課題を設定しても意欲がなければ学びはスタートしません。まずは、学習意欲をもたせましょう。

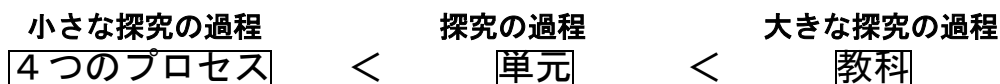
その上で知識の習得が始まります。学習内容を理解しようとする「わかる」「できる」の階層です。意味が「わかる」ことで、課題解決が「できる」ようになります。「できる」ようになってくると今度は、獲得した知識を活用することで知識はより深まり定着します。そして、さらに知識を広げ、思考力、判断力、表現力を高めていこうとします。それが「用いる」です。

また、それらを社会・世界とつなげていくことが探究活動であり「深める」になります。「習得・活用・探究」の学習過程を意識して教科指導を行っていくことが探究活動につながります。



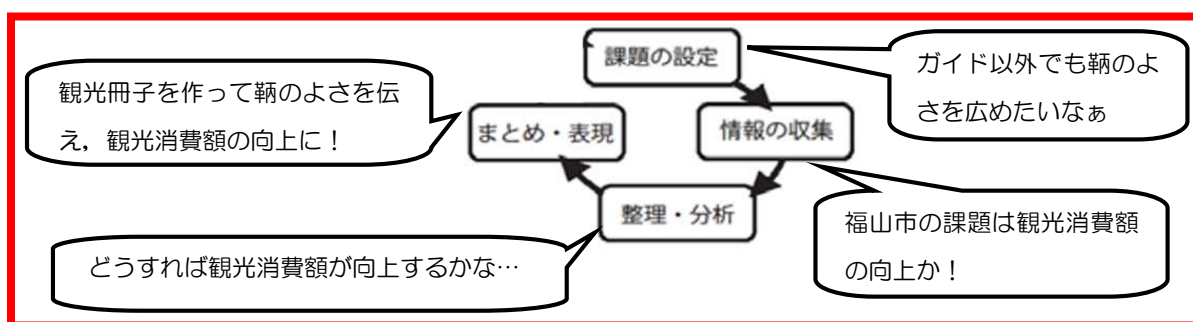
大きさの異なる探究の過程

「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」からなる探究の過程でできる単元を基準としたときに、単元と単元をまとめて教科全体（年間）を見通した時に見えてくる大きな探究の過程と、4つのプロセスの1つを取り上げた時に見えてくる小さな探究の過程を意識して単元計画を練ることが必要である。



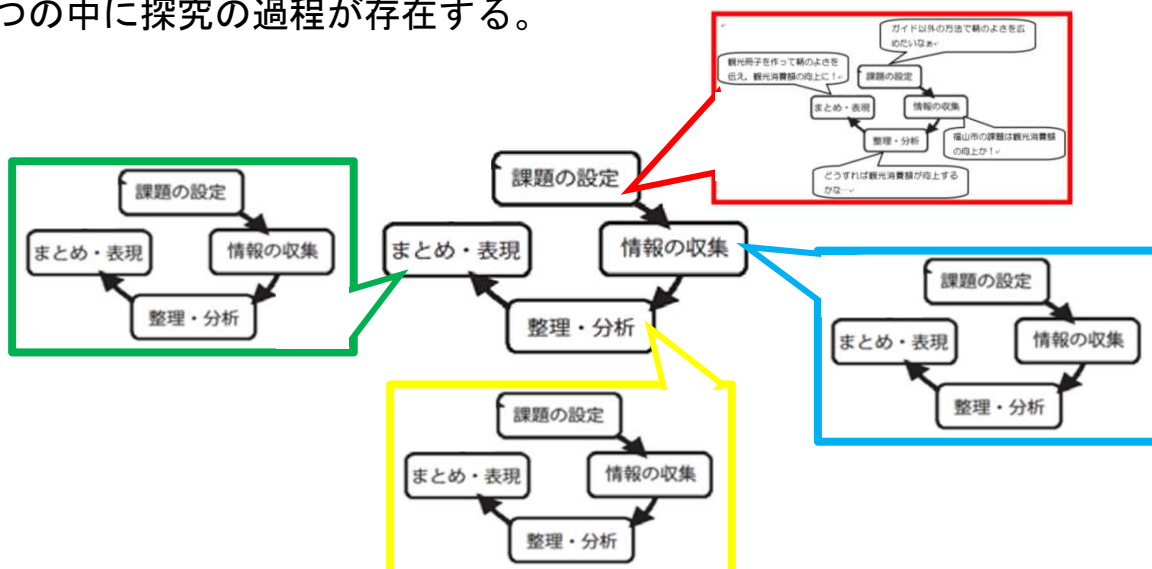
①小さな探究の過程

例えば、**課題の設定**で「鞆のよさを広めたい」と考えていく際に、GT から福山市の観光の課題として「観光消費額を向上させたい」という情報を収集する。その上で、自分達にできることを考えて意見を出し合い整理したり分析したりする。それらの活動を通して、「観光冊子を作る」という単位としての課題が設定させる。このように、「課題の設定」の中にも過程は存在する。



②単元での探究の過程

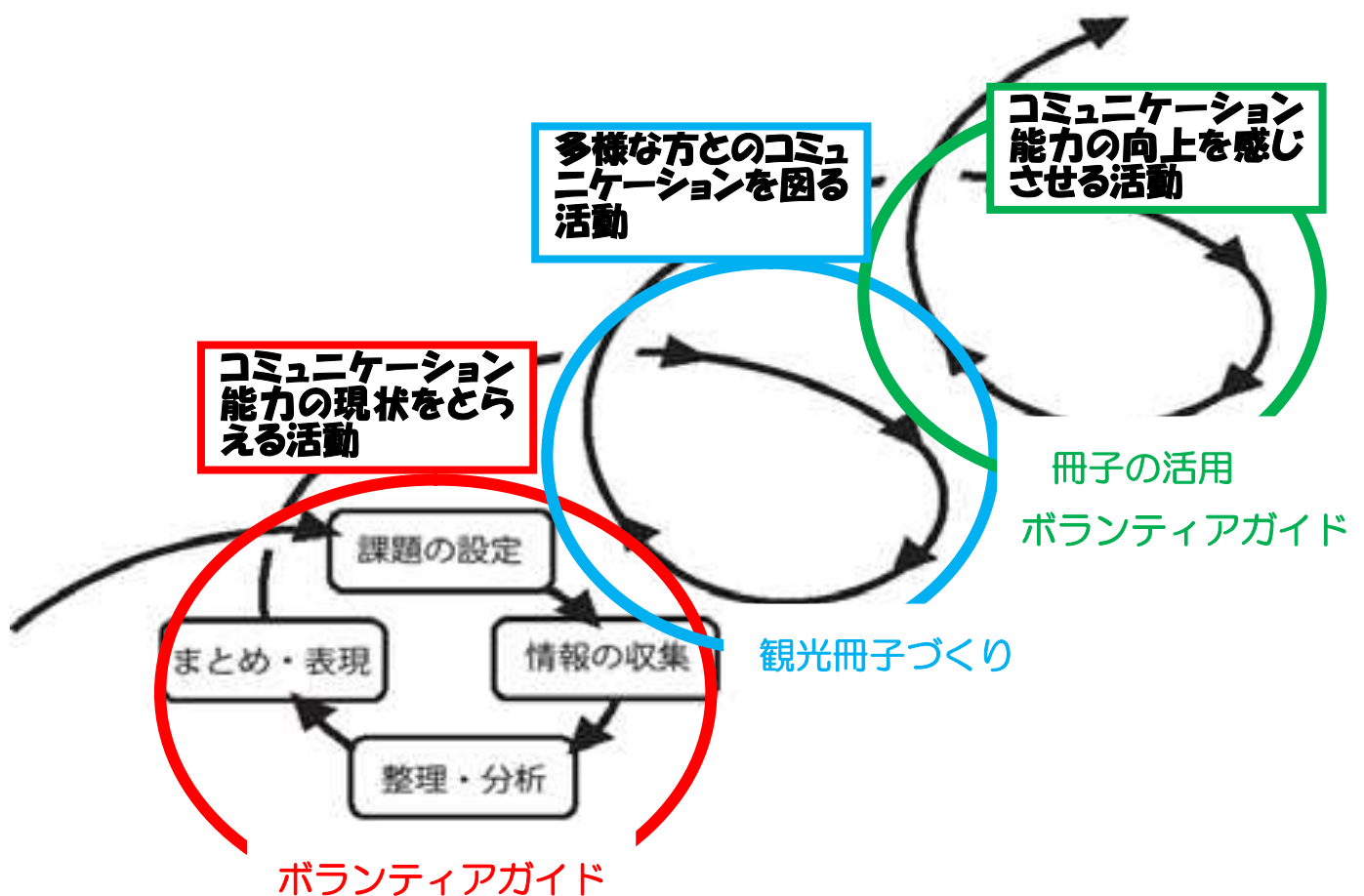
単元での探究の過程では、いかにして「観光冊子」を作り上げていくかを考えていくことになる。写真を載せるのであれば情報の収集では写真の撮り方を学ばなければならないし、取材もおこなわなければならない。整理・分析では、集めた情報を取捨選択しながらどのような記事にしていけるのかを考え、まとめ・表現で実際のページを作成することになる。また、その1つ1つの中に探究の過程が存在する。



③大きな探究の過程

これまで見たように、探究の過程は、「課題の設定」の中に存在し、それらが集まってできる単元の中にも存在する。そして、それらが集まってできる単元の中にも大きな探究の過程が存在する。そして、全体を見渡したときに見えてくるこの大きな探究の過程こそが単元計画を考えていく上で最も重要である。

学年の実態を把握し、どのような力を付けていく必要があるのかを見取り、年間のゴールのイメージをもち、単元と単元をいかにして繋いでいくのかを考える必要があるからである。単元とは、年間の単元がイメージの上で、小さな探究の過程が構成されてできるものである。



4 探究的な見方・考え方

物事を探究的に見る・考えるとは？

探究的な見方・考え方とは？

探究的な見方・考え方には、次の2つの要素が含まれる。

①各教科等における見方・考え方を総合的に働かせるということ

各教科等の特質に応じた見方・考え方を探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、児童が意識的に活用できるようになることが大事である。

②総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせること

特定の教科等の観点では捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えることであり、また、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の基事を捉える視点や考え方である。

児童が探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながるのである。

5 協働的な学び

なぜ友達と学ぶの？

協働的な学びとは？

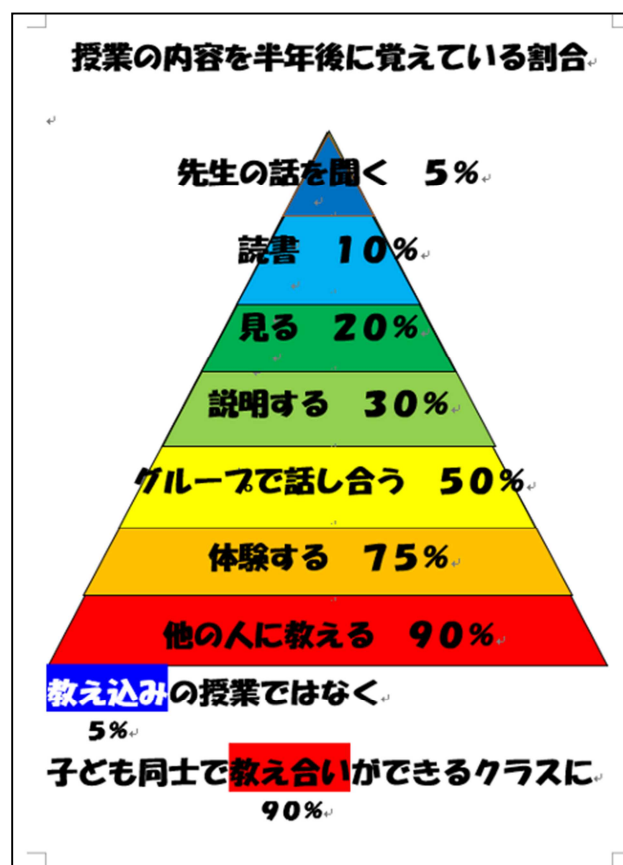
探究的な学びを協働的に行うことによって次のような点が期待できる。①多くの情報が集まる。②様々な視点から分析できる。③地域や社会とかがかわることができる。一人で学ぶより多くの情報が収集でき、多様な視点で分析ができ、さらにクラスで力を合わせたり分担したりすることで学級としての力や絆も向上していく。

なぜ協働的に学ぶのか？

協働的に学ぶことで、「なぜその課題を追究してきたのか（目的）」「これを追究して何を明らかにしようとしているのか（内容）」「どのような方法で追究すべきなのか（方法）」などの点が繰り返し問われることになり、学びが深まっていく。

また、右の「ラーニングピラミッド」に示されるように「人に教える」という行為は、定着につながるというデータもあります。

ラーニングピラミッド

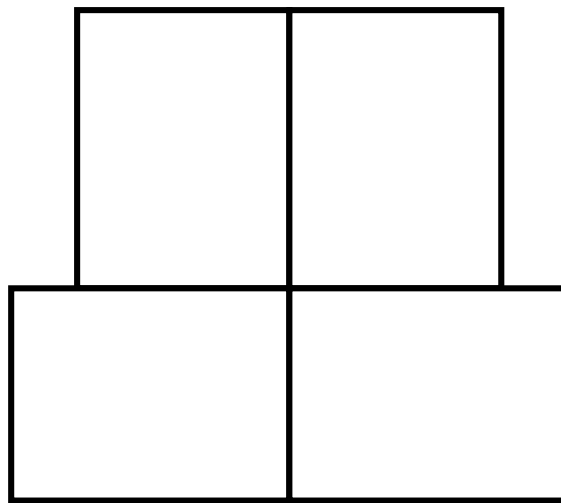


協働的に学ぶために

人数や席の配置も工夫しましょう。

人数が多すぎても少なすぎても協働学習は進みません。

席の配置も工夫しましょう。



全員が見やすい配置の例

コラム②：個人探究でも協働

自己探究テーマを設定し、個々に学んでいるからこそ、協働的な学びを仕組む意味が生じます。例えば、「〇月〇日はグループでこれまで情報収集してきたことの交流を行います。」とすることで、おののおの関係がないように見える個別の情報がつながって新たな意味を見いだしたり、〇日までにある程度調べておかないといけないという情報収集の日程のめやすになったりします。

6 横断的・総合的な学び

各教科の見方・考え方をつなぐ，活かす，発揮する

横断的・総合的な学びとは？

各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくことが必要である。探究課題の解決に教科等の枠組みを当てはめるのは困難であり，解決においては，各教科等の資質・能力が繰り返し何度となく活用・発揮されることで資質・能力の伸びが期待できる。

靫学→教科等

靫学で用いた思考スキルや思考ツールを教科等でも用いる

靫学の探究課題を教科等でも取り上げる

教科等→靫学

教科等で用いた思考スキルや思考ツールを靫学でも用いる

教科等の探究課題を靫学でも取り上げる

7 地域人材を生かした学び

韮にはすごい人がいっぱい！！！！

韮には、素敵な人がたくさんいます。その人達から韮について教わることで、韮のよさだけでなく韮に住む人の魅力にも気付けるはずです。地域人材をどんどん活用しましょう！

釜谷 勲さん



- ①探検クラブ GT, プロのガイド 釜谷勲さん
- ②韮のことなら何でも知っています。たぶん知らないことがないです。
- ③3年「韮の祭り調べ」, 「昔の道具調べ」

通堂館長さん



- ①韮歴史民俗資料館館長 通堂さん
- ②「街並みひな祭り」を主催しており企画の仕方指導してくれます。
- ③4年「イベントの企画」, 3年「祭り調べ」

宮本和子さん



- ①学校評価委員, プロのガイド 宮本さん
- ②韮のことなら何でも知っています。プロのガイドとして活躍中でガイドの仕方指導してくれます。
- ③6年「ガイドの仕方」 「景観学習」

羽田さん



- ①韮漁協組合長 羽田さん
- ②韮の漁業のことや港のことを丁寧に教えてください。
- ③3年「港調べ」, 「漁業調べ」

岡本良知さん



- ①岡本亀太郎本店社長 岡本さん
- ②保命酒のことを丁寧に教えてください。また、子ども達の取組をしっかりと評価して下さい、店頭に成果物なども設置下さい。
- ③3年「保命酒調べ」

岡本純夫さん



- ①保命酒屋（韮酒造）社長 岡本さん
- ②保命酒のことを丁寧に教えてください。町で会うと子ども達にいつも優しく声をかけてくれます。
- ③3年「保命酒調べ」

古志英俊さん



- ①趣味写真家 古志さん
- ②写真のことなら相談すれば何でも教えてください。撮り方、選び方などニーズに合わせて子ども達に指導してくれます。
- ③6年「写真の撮り方・選び方」, 3年「写真の撮り方」

上野リサさん



- ①PC デザイナー 上野さん
- ②コンピューター上でのデザインや HP などコンピューター関係のことを相談におって行ってくれます。
- ③3年「カルタロゴデザイン」 6年「観光冊子表紙デザイン」

茶谷 仁さん



- ① 韮町内会連絡協議会 副会長 茶谷仁さん
- ② 毎朝子ども達の登校を見守ってくれており韮の歴史だけでなく、子ども達のことにもよく知ってくれています。
- ③ 8年「自己探究」

岡田多佳恵さん



- ① 村上パン 岡田多佳恵さん
- ② パンづくりのことなら韮のソウルフード 村上パンの岡田さんに。
- ③ 6年「日本遺産プロジェクト」

片岡明彦さん



- ① 韮テツバスセンター 所長 片岡さん
- ② 韮の観光についてくわし分かりやすく教えてください。
- ③ 6年「ガイドの仕方」「観光」

通堂國廣さん



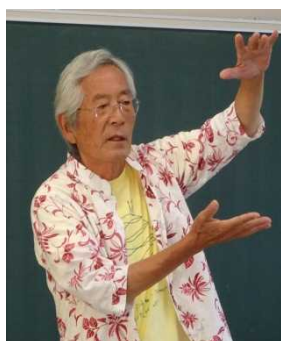
- ① 韮公民館 通堂館長さん
- ② 町づくりのことをくわしく教えてください。
- ③ 5年「町づくり調べ」

江竜さん夫婦



- ① ギャラリーショップ「MASUYA」店主 江竜さん
- ② 活版印刷やはんこづくりなどをされており子ども達の作品づくりに指導やアドバイスをしてくださいます。
- ③ 6年「日本遺産プロジェクト」

大浜憲司さん



- ① 韮学区町づくり推進委員 大浜委員長
- ② 町づくりのことなら何でも教えてください。
- ③ 5年「町づくり調べ」

8 外部人材を生かした学び

プロフェッショナルとの出会い

子ども達の学びを「ごっこ」ではなく「本物」にするために授業の中で本物（プロフェッショナル）との出会いを仕組みましょう。本物との出会いで感じることは計り知れません。

細田暁教授



- ①横浜国立大学准教授
- ② 靱の自然災害について研究されている教授です。地震や土砂災害を中心に防災に関する授業を行ってくれます。
- ③ 4年「土砂災害のしくみ」「地震が起こったらどうすればよいのか」

高橋光晴さん



- ①福山市防災リーダー
- ② 災害が発生した後の避難生活に役立つグッズ作りなどを教えてくれます。ろうそくやスリッパの作り方など楽しく学ばせてくれます。
- ③ 4年「地震の起こり方」「避難生活」

東京海上日動



- ①東京海上日動
- ② 「ぼうさい授業」を企業として行ってくれています。6月初旬までに申し込みば出前授業を行ってくれます。
- ③ 4年「地震津波の起こり方」「防災バック」

小川真平さん



- ①サンモルト社長
- ② 火育として火に関することを教えてくれます。また「チェック社長」として軽トラ市を開いたりSNSを活用した靱の情報を発信したりされている方です。
- ③ 4年「避難生活中の火の活用」

渡辺幸三さん



- ①びんご産業コーディネーター
- ② 福山市の産業や観光の現状について教えてくれます。「何も無いとは言わせない」の人です。市での取組や・観光の課題を教えるので課題の設定に役立ちます。
- ③ 6年「魅力発信」

高階千保子さん



- ①南禅坊
- ② 華道体験の講師です。優しく華道について教えてください。
- ③ 1～3年「伝統文化体験—華道—」

栗原正雄さん



- ①正法寺
- ② 座禅体験の講師です。体験日のみだけでなく日常的に座禅を体験させてくださいます。
- ③ 1～3年「伝統文化体験—座禅—」

堤公子さん



- ①法宣寺
- ② 茶道体験の講師です。茶道クラブの講師も行っており、児童と多くの関わりをもっています。
- ③ 1～3年「伝統文化体験—茶道—」

9 考えるとは？

「考える」ということを考えてみる

「考える」とは、物事を比較したり分類したりしながら自分の考えを形成していくことであり、そのことを意図的に意識させるものが考えるための技法である。考えるための技法を活用することで、①「整理・分析」における思考力・判断力・表現力等を育てる、協働的な学習が充実する、③各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成すると同時に、各教科等で学んだ資質・能力を実際の問題解決に活用できるようになるという3つの意義がある。

考えるための10の技法

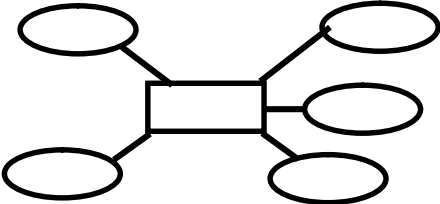
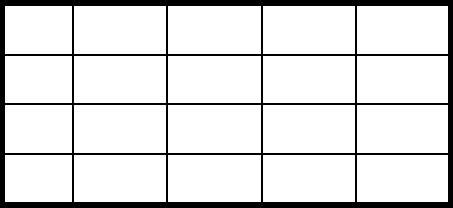
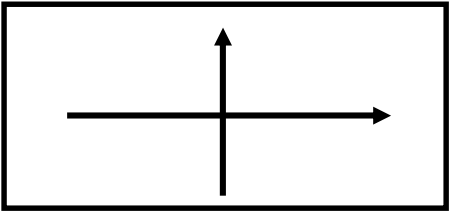
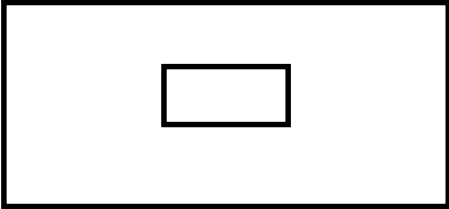
①順序付ける 複数の対象について、ある視点や条件に沿って並び替える ①適切な基準を決める（時間・大小・重要度など） ②基準に従って事項を整理する ③整理したことについて意見をもつ	②比較する 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする ①比較の視点をもつ（類比…同じところを見つける、対比…違うところを見つける） ②視点に沿って同じところと違うところを見つける ③類比と対比についてまとめ意見を作る
③分類する 複数の対象について、ある視点から共通点のあるものをまとめる ①対象のもついくつかの特徴から視点を選ぶ ②視点に当てはまる特徴をもつものをグループ化する ③グループ化したものをもとに意見を作る	④関連付ける 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける ①学習事項の特徴や傾向を列挙する ②同じような特徴や傾向をもった既習事項や学習事項を想起する ③共通した特徴や傾向に焦点を当てて意見を作る
⑤多面的、多角的に見る 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする ①複数の視点をもつ ②それぞれの視点から言えることを検討する ③結果を統合して意見を作る	⑥理由付ける（原因や根拠を見付ける） 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする ①主張や結論を明確にする ②主張や結論につながりそうな事実を列挙する ③両者を強くつなぐものを選んで意見を作る
⑦見通す（結果を予想する） 見通しを立てる、物事の結果を予想する ①今やっていることが位置づく全体についてのイメージを作る ②やっていることがどのような結果に結び付くのかをできるだけ挙げる ③やっていることについての修正も含めて意見を作る	⑧具体化する（個別化する、分解する） 対象に関する上位概念や法則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする ①概念やきまりの意味を明確にする ②概念・カテゴリーに含まれるものや事例を想起したりきまり・法則に当てはまる場面やその結果を示す事例を想起したりする ③どれが最もよく概念やきまりに当てはまっているかを重視しながら意見を作る
⑨抽象化する（一般化する、統合する） 対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を1つにまとめたりする ①具体事例をグループ化する ②事例に共通する性質や傾向を見みつける ③事例全体を言い表す名前をつけるか事例に共通するきまりを作る ④名前やきまりについての意見を作る	⑩構造化する 考えを構造的（網構造・層構造）に整理する ①伝えたいことや整理したいことを列挙する ②表現の構造を意識して型や図を用いて構造を表す ③部分と部分のつながりを意識して意見を表す

10 思考ツール

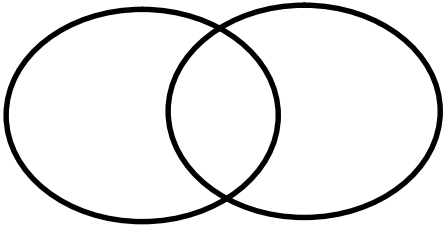
便利だけど注意が必要

「思考ツール」とは、頭の中にある知識や新しく得た情報を一定の視点や枠組みに従って書き出すツールである。思考ツールは、①教科等を越えて児童の思考を助ける、②協働的な学習、対話的な学習がしやすくなる、③学習の振り返りや指導の改善に活用できる。活用する際は①思考ツールを活用することは目的ではないこと、②思考ツールそのものが考えを生み出すものではないという点に注意が必要。

思考ツールの紹介

①ウエビング 	「関連付け」「考えを拡散させる」際に活用 ④考えを拡散させることができたか一目で分かる。 ⑦単純に拡散させて満足するのではなく、出た意見を関連付けてキーワードを見つけることも時には必要。
②マトリックス 	複数の視点より「分類する」際に活用 ④複数の条件より自分の考えがどこに当てはまるのか「選ぶ」という活動になるので参加しやすい。また、拡散した意見を分類することができる。 ⑦視点が増えれば増えるほど活動に時間を要する。
③座標軸 	2つの視点より「分類する」際に活用 ④複数の条件より自分の考えがどこに当てはまるのか「選ぶ」という活動になるので参加しやすい。また、拡散した意見を分類することができる。 ⑦数直線的な考え方に対する理解が必要となり、意味を理解した上で活用させたい。
④ボックスチャート 	「情報を収集する」「関連付ける」際に活用 ④収集した情報やアイデアが書くやすく、最終的な意見も一目で分かる。 ⑦最終的な意見を書く時間を確保しておかないと、情報収集やアイデア出しで終始してしまう。

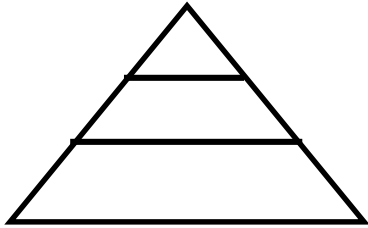
⑤ベン図



「分類する」、「共通点を見出す」際に活用

- ④比較する際には相違点のみに目がいきがちであるが、ベン図を活用すると相違点と共通点の両方を意識しながら特徴を明らかにすることができる。
- ⑤ベン図を活用すると分類するという活動が生まれ、「比較の視点」が明確にならない。

⑥ピラミッドチャート



「理由を付ける」「多面的に見る」際に活用

- ④「複数の意見を1つに絞る」イメージが強いが、理由を話し合い上位上位へ上げていくため、多面的に物事を考えながら根拠が明確になっていく。
- ⑤自分の考えを上上げることに固執し本来の目的からずれることも。目的意識をもたせて活用したい。

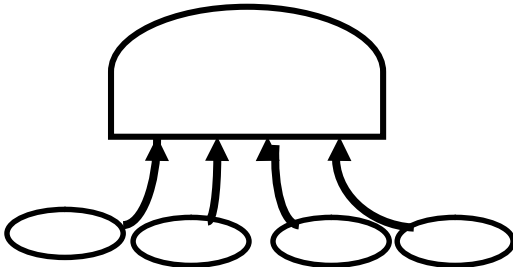
⑦ランキング付け



「理由を付ける」「多面的に見る」際に活用

- ④優劣をつけることで、理由や根拠が明確になり物事を多面的に見ることができる。
- ⑤大事なことはランキングが完成することより、その理由！ランキング発表ではなく、理由を発表させましょう。

⑧クラゲチャート



「具体化」反対に「抽象化」する際に活用

- ④多様な考えに触れながら、自分の考えを広げ、整理することができる。
- ⑤図として完成させることにこだわりすぎると見た目の仕上がりに満足してしまい、内容を深めることにつながらない場合も…。

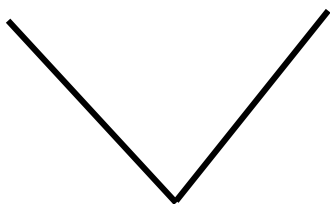
⑨PMI シート

P プラス (よいところ)	M マイナス (だめなところ)	I インテレストイング (おもしろい)

「根拠を明確にする」際に活用

- ④直感的なイメージではなく、物事を多視点的に見ることができる。
- ⑤Interesting は大事な視点であるが、授業の中で扱いにくい場合も多い。Interesting の項目をどのように扱っていくのが課題となる。

⑩V チャート



「関連付ける」際に活用

- ④A 案 B 案 2 つの案のどちらかではなく、C 案を作成することで、どちらの意見も大切にすることができる。
- ⑤C 案作成に時間を要する場合もあるので、時間配分には注意が必要。

探究課題の設定

探究課題を設定する際に「主体性」も大切にしたいし、学年で割り当てられている「テーマ」の枠の中で設定させたく、葛藤が生まれます。テーマの中で主体性を大事にするイメージで設定しましょう。

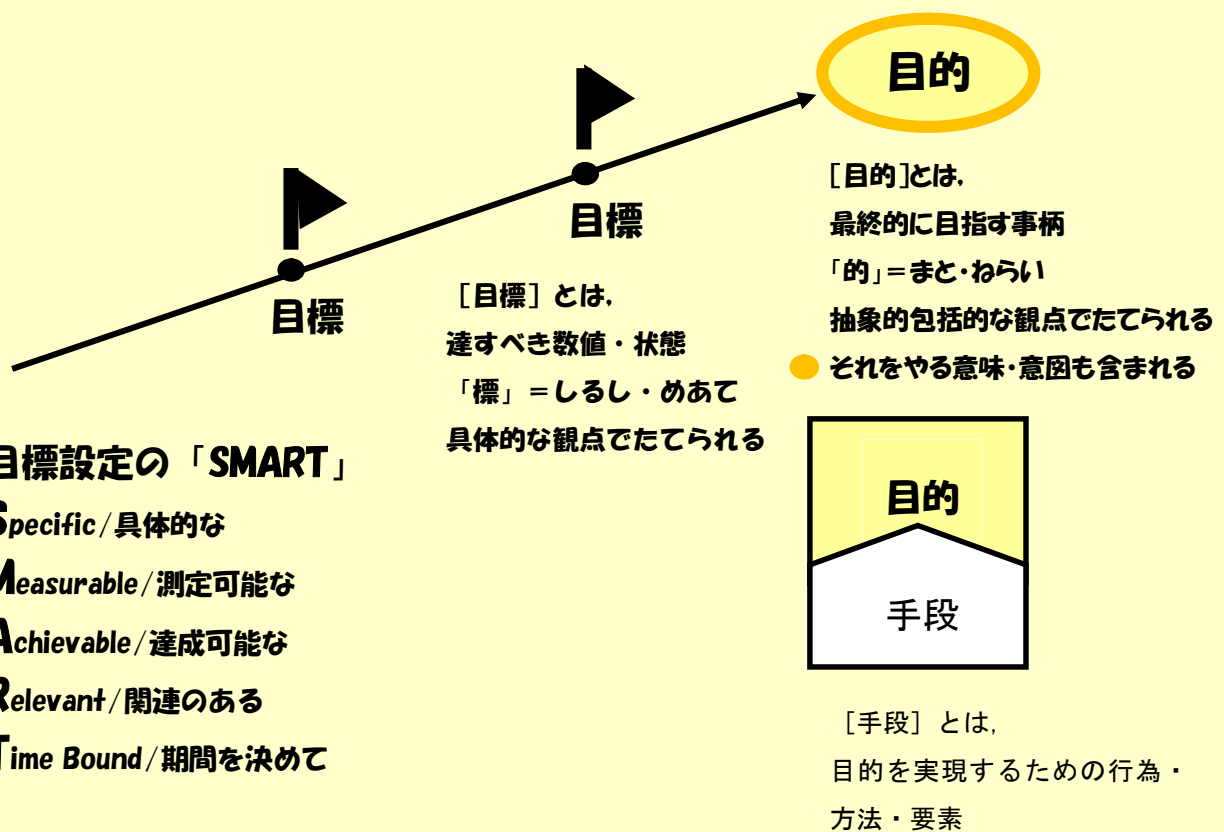
探究課題は変わってもよい

年度当初に学級で話し合って設定した探究課題や、6年生の終わりにこれまでの学習を振り返って設定した自己の探究課題。しかし、学習が進むにつれて探究したいことが変わったり課題が変わったりすることもあると思います。そうした自発的な探究課題の変更は認めましょう！

探究の先のゴールの設定

探究課題から具体的なゴールをイメージさせる。ゴールとは、「目的」と「目標」をどこに設定するかである。目標には、短期の目標と長期の目標があり、児童が設定する目標がどこをとらえているのかを理解することが大切である。スタートの段階で目的をとらえている子には目標も考えさせる、また、人口増加などを目的に設定している子には何年後に実現するのかを考えさせることも必要である。

コラム③：目標と目的と手段の違い



12 失敗

失敗の先に学びがある

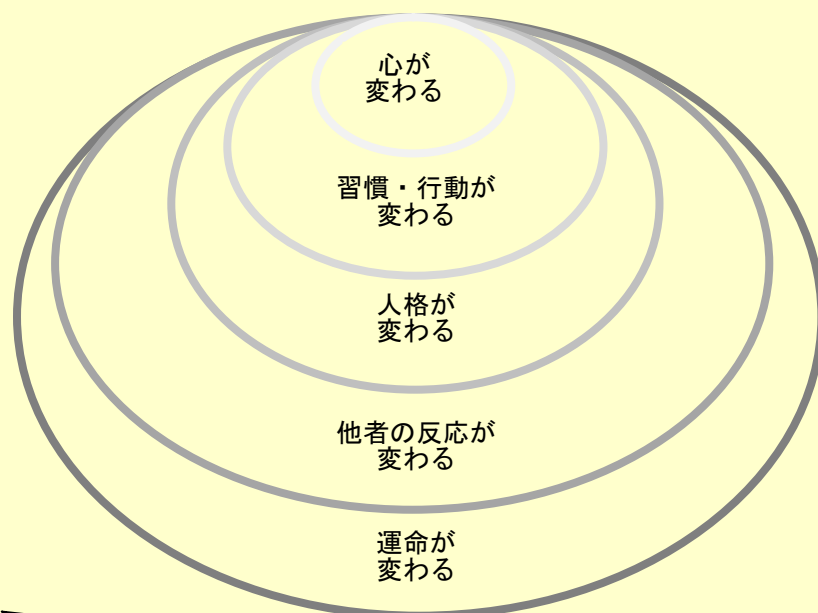
挑戦するから失敗がある

探究の過程において上手くいかないことは多々ある。その時にどう指導するのも大切なことです。教師が道を示し、事前に失敗しないようにしたり失敗したときにすぐに手を差し伸べたりするのは必ずしも子どもためにならない場合もある。

失敗＝未成功

「失敗を“未成功”」ととらえることでその考え方が変わってくるのではないのでしょうか。そう考えると「あえて失敗を見守る」ことも時には必要なのでは？

コラム④：心（考え方）が変わると…



「心」と「環境・運命」は「習慣」を通じてつながっている

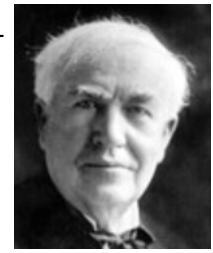


星陵高校野球部
山下智茂前監督

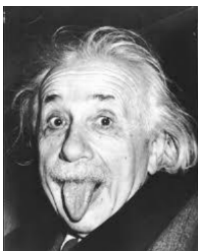
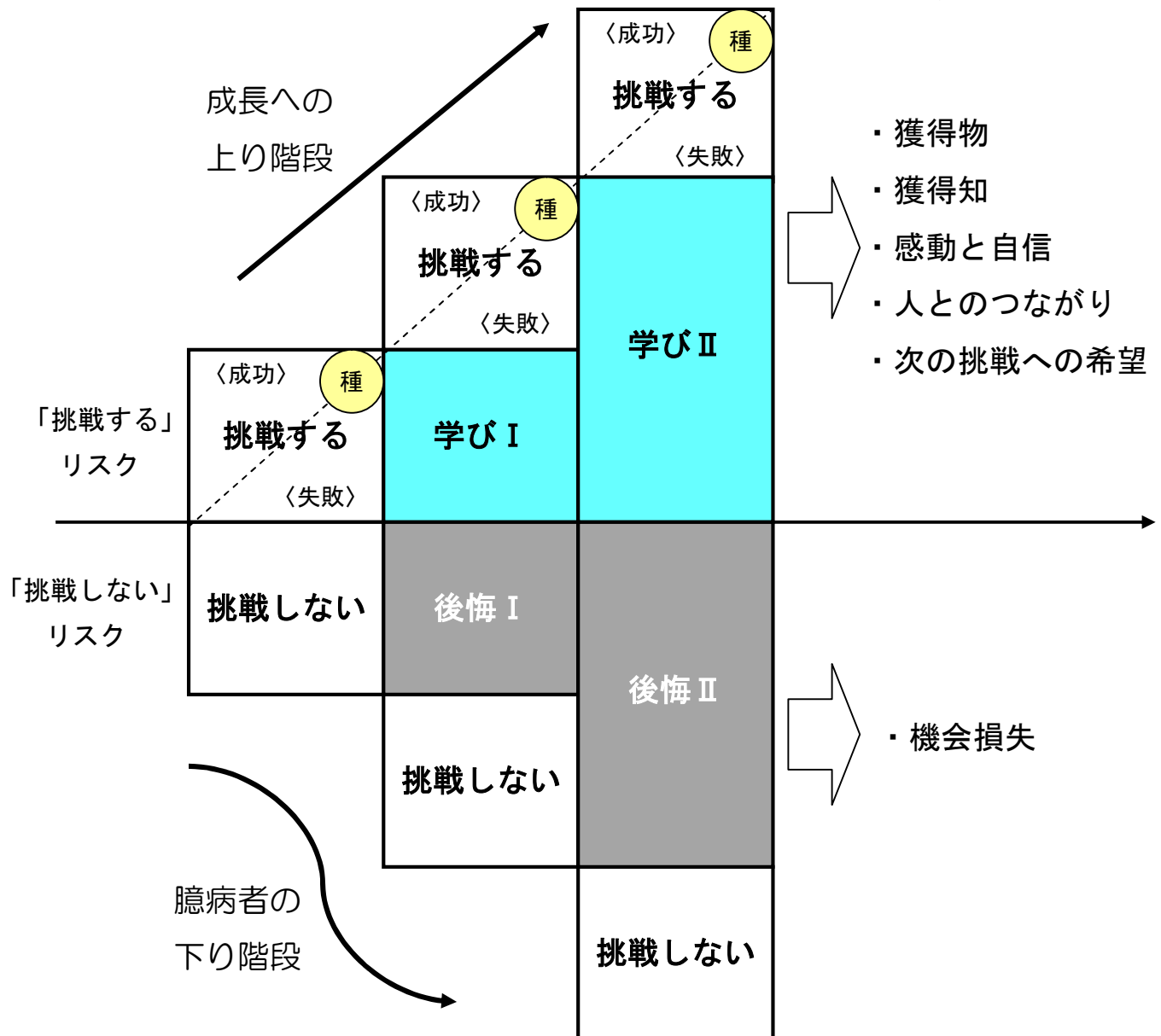
心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、運命が変わる

I have not failed. I' ve just found 10,000 ways that won' t work.

私は失敗したことがない。1 万通りのうまく行かない方法を見つただけだ。



Thomas Edison
トーマス・エジソン



Albert Einstein
アインシュタイン

Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.

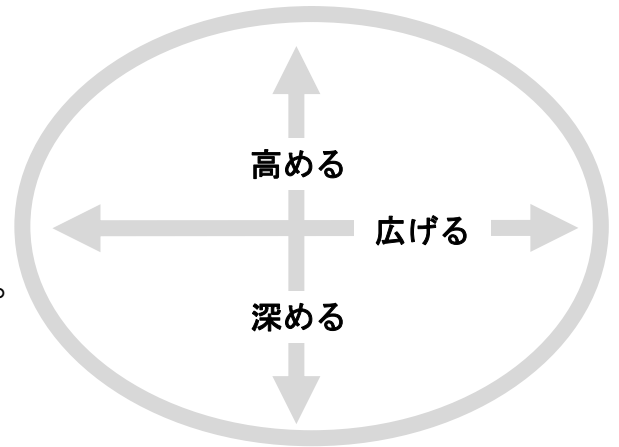
挫折を経験した事がない者は、新しい事に挑戦したことが無いということだ。

13 学び

そもそも学びとは何なのか

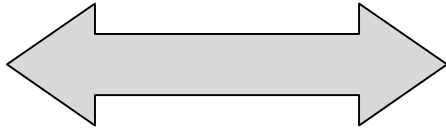
学びの3方向

学ぶことを「器」が大きく・強くなっていくことととらえると3つの方向が考えられます。「広げる・高める・深める」です。



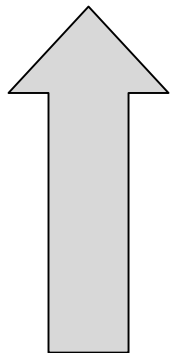
「広げる」ための行動ヒント

- ☐ いろいろな読書をする
- ☐ よく遊び、旅行へ行き、見聞を広げる
- ☐ 学習以外の活動にも積極的に
(趣味・ボランティア・祭りなど)
- ☐ さまざまな人とつながる
- ☐ 幅広い知識や教養を蓄える



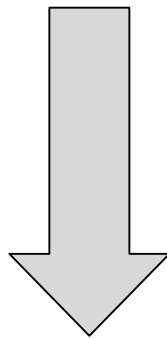
「高める」ための行動ヒント

- ☐ どんな学習にもひと工夫を加える意識をもつ
- ☐ 主催者側の目線で物事を見る
- ☐ 高みを目指して生きるロールモデルをもつ
- ☐ 難しいことを振られたら、まずは「YES」と答え、方法は後から考える



「深める」ための行動ヒント

- ☐ 専門知識を深く勉強する
- ☐ 人にいろいろと教えてあげる
(教える人が一番深く学べる)
- ☐ 1つの習慣をしつこく続ける
- ☐ 限界を越えるまで徹底的に
やってみる
- ☐ 挫折や失敗、苦境は
自分を深めるチャンス！



学びを妨げるものは…

①教師の過度なかかわり

子どもが自ら学ぼうとしているときに教師が教えすぎるのは、有効な指導とは言えません。教師は学び方を指導し、子ども自身に学ばせましょう。

②多すぎる人数

探究に適した人数は1～6人程度。クラス全体で話し合うことも時には必要であるが、探究をする際には、多くても6人まで。それ以上は、学べない・学ばない子どもが出てくる恐れがあります。

全体で話し合うこと：コンセプト，成果物の構成などの大枠
1人 or グループで：探究内容，成果物など

コラム⑤：田村学先生が言う深い学びとは？

「知識と知識がつながる」，「技能がつながる」，「知識と場面がつながる」，「知識・技能が目的や価値，手応えとつながる」の4つのパターンがある。今，学習していることがこれまでの知識や技能，場面，目的や価値，手応えとどうつなげていくのかを考えることが重要です。

【参考文献】

田村学『「思考ツール」の授業』教育技術 MOOK 2013年

田村学『授業を磨く』東洋館出版社 2015年

田村学『深い学び』東洋館出版社 2018年

村川雅弘『カリマネ100の処方』教育開発研究所 2018年

石堂裕『アクティブラーニングのABC』日本文教出版 2016年

秋田喜代美・福井大学教育学部附属義務教育学校研究会『福井発プロジェクト型学習』東洋館出版社 2018年

村山昇『働き方の哲学』Discover 2018年

『学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』